

中国に工場進出

豊川の
対松堂精工
プリント基板生産

【香港10日草間俊介】愛知県豊川市川花町のプリント基板メーカー「対松堂精工」（田中辰治社長）はこのほど、香港に現地法人を設立した。香港の隣の中国・深圳市に工場を借りる契約を済ませ、近く同工場でコピー機用のプリント基板の生産を開始する。

現地法人の社長には田中社長の長男の寛孝常務（三セ）が就任した。対松堂精工は社員約九十人、資本金二千七百四十万円で、この程度の規模の製造業が中国南部に工場進出するのは、愛知県内ではまだ少数派だ。寛孝常務は「将来の生き残りをかけて、進出を決定した」と言っている。

計画では深圳工場に技術者二人を派遣、駐在させて現地スタッフ約三十人で生産をスタートさせる。同工場の総責任者となる寛孝常務は「とりあえず年産二億円程度をめざしたい」と中国進出にかける決意を語った。